

とりもどそう 美しい日本の暮らしと風景

～地域型復興住宅と復興まちづくり～



地域住宅計画全国シンポジウム 2012 住田大会
10月4日(木)~6日(土) 岩手県住田町 農林会館



◆主催：地域住宅計画推進協議会 岩手県住田町

◆共催：豊かな住まい・まちづくり推進会議



大会スケジュール

1日目 10月4日(木)

- 14:30 開会
開会挨拶 住田町長 多田欣一 氏（地域住宅計画推進協議会 会長）
来賓挨拶 国土交通省 住宅局 住環境整備室長 木下一也 氏
大会趣旨説明 北九州市立大学 都市政策研究所 准教授 内田 晃 氏
（地域住宅計画推進協議会 企画運営委員長）
住田町の紹介 住田町 建設課長 佐々木邦夫 氏
- 15:00 まち歩き
- 16:50 地域住宅計画賞授賞式
受賞作品講評 東京大学名誉教授 渡邊定夫 氏
(地域住宅計画推進協議会 顧問、地域住宅計画賞審査委員会委員長)
- 17:30 閉会
- 18:00 意見交換会（ホテルグリーンベル高勘）

2日目 10月5日(金)

- 9:00 基調講演 復興地域づくりの現状と課題
(独)防災科学技術研究所 客員研究員 佐藤隆雄 氏
- 10:00 基調報告
①森林・林業日本一の町づくり
住田町 産業振興課 佐々木伸也 氏
②仮設住宅から復興住宅へ
住田住宅産業株式会社 代表取締役 佐々木一彦 氏
③被災者・建築家として～地域・住宅復興の取組
(有)ササキ設計 佐々木文彦 氏
④宮古発・復興住宅「ぬぐだまり」建設プロジェクト
(地域住宅計画賞 東日本大震災復興特別部門 奨励賞 授賞作品)
岩手県立大学盛岡短期大学部准教授 内田信平 氏
- 13:00 パネルディスカッション「地域で支える仮設住宅・復興住宅」
パネリスト：多田欣一氏 住田町長
三井所清典 氏 芝浦工業大学名誉教授
佐藤隆雄 氏 (独)防災科学技術研究所客員研究員
内田信平 氏 岩手県立大学盛岡短期大学部准教授
コーディネーター：岩田司 氏 (独)建築研究所 上席研究員兼研究主幹
- 14:45 来年度開催地挨拶 愛知県豊田市
- 14:50 閉会

3日目 10月6日(土)

9:00~16:00

エクスカーション（住田、陸前高田、大船渡、釜石、遠野等の視察）

開会挨拶

地域の知恵と力と絆で復興を！



住田町長 多田 欣一

地域住宅計画全国シンポジウム2012住田大会にお出でいただきました皆様を心から歓迎申し上げます。また、今大会が盛大に開催されるにあたり、各関係機関・団体のご尽力に対しまして厚く御礼と感謝を申し上げます。

さて、住田町では昨年の3月11日発生しました東日本大震災で被災された方々、とりわけ歴史、文化、生活が一体で、隣接地でもある大船渡市、陸前高田市の被災された方々の後方支援として、一刻でも早く安らぎの場を提供したいという思いから、木造での戸建応急仮設住宅93戸を町単独予算で建設したところであります。

お陰様で、入居者からは木の香りが良く、安らぎを感じられ、戸建てのためプライバシーが守られるということで好評を得ているところであります。この取り組みが、これまで応急仮設住宅はプレハブ住宅が基本であり、また、被災地以外での木造による応急仮設住宅の供給は、我が国災害対策史上画期的な道を開いたということで、マスコミ、関係機関等の各方面から高く評価され、このことが昨年開催されました2011水俣大会におきまして、地域住宅計画審査委員会特別賞の受賞並びに今大会開催地の運びとなったものであります。

本大会のテーマは、「よりもどそう美しい日本の暮らしと風景～地域型復興住宅と復興まちづくり～」ですが、被災地はいまだにがれきの処理に追われ、被災者の高台移転や災害公営住宅・復興住宅等の建設が思うよう進んではいない状況であります。それでも着実に復興に向かって前進しておりますので、本大会での基調報告や討論が、なお一層今後における被災地のまちづくりや被災者の復興住宅建設の糧となることを期待するものであります。

終わりに、ご参加いただきました皆様方にとりまして、本大会が実り多いものとなりますとともに皆様方のますますのご健勝とご活躍をご祈念いたしまして挨拶といたします。平素は、当協議会の活動につきましてご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。



住田町紹介

いにしえより受け継がれてきた歴史や文化の香り感じてみる

平安時代、気仙地域は金の産地として注目されていました。住田にもいくつかの金山があり、産出された金は平泉や京の都までも運ばれたといわれています。

平安末期には、野尻金山で働く「掘子」のために平泉・藤原氏が阿弥陀堂を建立。世田米鉢ヶ森の光勝寺開基の端緒とされています。堂宇は荒廃や洪水、火災などの災禍に遭いましたが、鎌倉初期の本尊阿弥陀如来坐像、脇仏觀音菩薩坐像、脇仏勢至菩薩坐像の3体（県指定有形文化財）が現存しています。また、一本木彫りで高さ1メートルの玉泉寺・聖徳太子像や住田町では一番大きい坐像の桧山阿弥陀堂・阿弥陀如来坐像は、いずれも室町期の作で町指定有形文化財となっています。

他に大同年間（806～809年）創建とされる悠久の歴史を誇る五葉山神社、気仙大工による豪壮な山門の満蔵など、特徴的な神社仏閣が多く見られます。

民俗芸能は、多くが藩政時代からの伝承とされています。土地神として信仰されている世田米の天照御祖神社の3年に一度の式年大祭には下在大行列が行われます。これは世田米下在の人が室根神社（一関市）に奉納される行列を伝えたのが始まりで、京都本願寺の方式を取り入れ現在の形になったといわれています。ほかに、宝暦年間の伝承とされる外館鹿踊、南部神楽の流れを汲む大股神楽、「掘子」によって伝えられた大平梅ノ木念佛剣舞、勇壮で華麗な月山鹿踊など、民間に守り継がれてきた芸能が、舞とともにその背景にある歴史や人々の心を今に伝えています（いずれも町指定無形民俗文化財）。

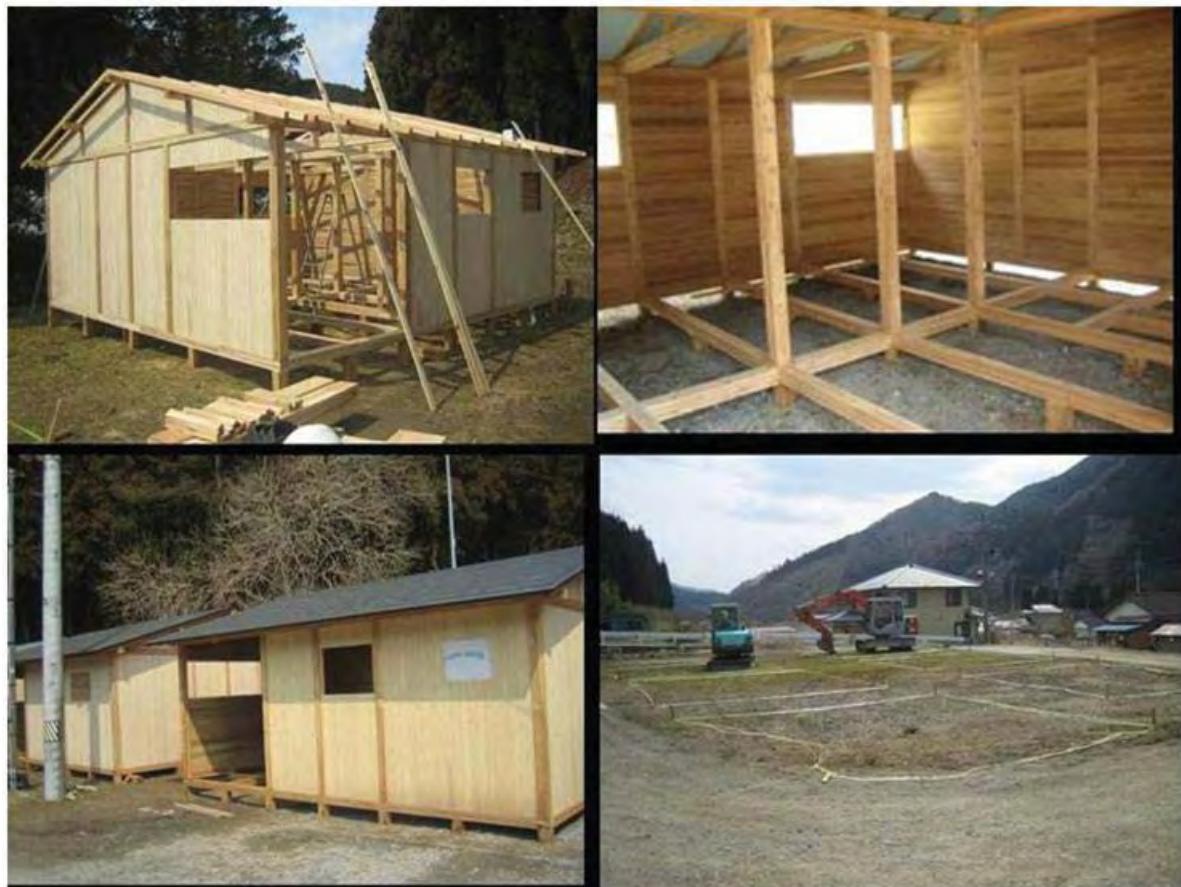


大会趣旨

我が国に甚大な被害をもたらした東日本大震災から約1年半、被災地では一歩一歩、そして着実に復興へ向けて歩んでいます。本年の大会は被災地に隣接する岩手県住田町で開催します。住田町では地元の気仙杉を活用した戸建ての木造応急仮設住宅の建設をいち早く決定し、震災後の5月に93戸を完成させました。住田町での建設が契機となってその動きは広がり、岩手、宮城、福島の3県で合計52,854戸の木造応急仮設住宅が建設されました。

東北地方には豊かな山林があり、古くより地元の木材を使ったすまいづくりが育まれてきました。木を育て、切り出し、加工し、組み立てる、これらの各プロセスにおいても地域の職人達が携わってきました。地域の資源である「木」と「人」を活用して「地域型復興住宅」を建設することは、疲弊した地域経済の復活のみならず、美しい日本の原風景を再構築し、暖かい木に囲まれた人々の豊かな暮らしを取り戻すことにつながります。

本大会は、「よりもどぞう美しい日本の暮らしと風景～地域型復興住宅と復興まちづくり～」をテーマに、復興に関わる様々な事業展開から見えてくる課題、今後の地域型復興住宅・復興まちづくりのあり方について議論します。東海、東南海、南海地震など、日本近海ではいつ大地震が起こってもおかしくない状況です。全国各地から訪れた参加者の皆様が危機感を共有し、議論を深めることを期待します。



基調講演

基調講演 復興地域づくりの現状と課題

講師 佐藤 隆雄 氏 (独)防災科学技術研究所客員研究員
関西学院大学復興制度研究所客員研究員

今回の震災にあたっての応急・復旧対応における問題点と課題、教訓について、整理するとともに、応急・復旧段階から復興を考えることの必要性と、復興の原則・基本は「医・職・住」にあること、そして、自治復興、連続復興、地産・地消復興、交流復興、持続発展可能復興の視点が重要であり、こうした観点を踏まえたこれからの地域防災計画・防災対策のあり方について、共に考えてみたい。

故郷大船渡を命守る街に 防災科学技術研の佐藤さん



大船渡市内の被災状況を調査する
佐藤さん=3月31日

岩手県大船渡出身の防災科学技術研究所(茨城県つくば市)客員研究員佐藤隆雄さん(62)が、古里で街づくりの復興支援を始めた。市内の被害状況を調査し、市の復興計画策定について提言する。「命を守る街づくりに向け、古里の役に立ちたい」と話している。

3月28日から4日間、被災した市内沿岸部の集落をつぶさに調査。高校時代まで過ごした故郷の変わり果てた姿にぼうぜんとしたが、国内外の大災害を研究してきた専門家として「悲惨な被害を再び出さないよう、教訓を生かしたい」と自分に言い聞かせる。調査結果を基に、津波被害に遭わない居住地域などを検討していく。

今、最も心配しているのが仮設住宅だ。「冬の寒さをしげには、プレハブではなく、木のぬぐもりを感じられる住宅がいい。自営業者の生活再建に向け、仮設住宅でも営業できるようにすべきだ」。被災者の立場に立った提言を心がける。(小沢一成)

河北新報(2011年4月4日付)より

酒田大火以来、各地の災害現場を調査、国及び地方公共団体の防災調査・防災、画の立案に携わる。災害ボランティアのあり方に關し、イタリア・フランス・ドイツを訪問調査、また、アジア防災センター設立に關し、ベトナム・タイ・インドネシアを訪問調査、さらに、復興支援のあり方に關し、アメリカFEMAやトルコ災害総局・地震研究所、イスタンブール大都市をはじめとする7都市を訪問調査、また、インドネシア(ジョグジャカルタ)におけるスマトラ地震復興調査、など、国外の防災調査も多数行っている。東日本大震災以降は、出身地、大船渡復興支援のため、大船渡市復興計画策定委員や大船渡市復興計画推進委員を務めるとともに、現在、ボランティアで、大船渡市碁石地区及び綾里地区の復興まちづくり支援を行なっている。

基調報告

1 森林・林業日本一の町づくり：住田町 産業振興課 佐々木 伸也 氏



1969年 岩手県生まれ
1990年 住田町役場入庁（農政課）
1997年 住田町建設課
2007年 林野庁（割愛）
2009年 産業振興課 林政係長

2 仮設住宅から復興住宅へ：住田住宅産業株式会社 代表取締役 佐々木 一彦 氏



1945年 住田町生まれ。岩手県水沢第一高校卒業。（商工業経営、経理）
1965年 住田町商工会経営指導員
1991年 建設業技術検定研修修了
1991年 住田住宅産業株式会社入社（施工管理技士、工事部長を経る）
2002年 代表取締役就任

3 被災者・建築家として～地域・住宅復興の取組～：有限会社ササキ設計 佐々木 文彦 氏



1956年 宮城県生まれ
1978年 早稲田大学専門学校建築科卒
1990年 有限会社ササキ設計を設立、代表取締役に就任
1999年 任意団体・杜の家づくりネットワーク設立、代表に就任
主な受賞歴
2001年 山元町中学校提案競技 優秀賞
2005年 宮城木造住宅コンクール 優秀賞
2007年 日本木材青壮団連合会木材活用コンクール住宅部門賞
2008年 宮城木造住宅コンクール 特別賞
2010年 「富沢の家」民家再生奨励賞

4 宮古発・復興住宅「ぬぐだまり」建設プロジェクト

（地域住宅計画賞 東日本大震災復興特別部門 奨励賞 授賞作品）

：岩手県立大学盛岡短期大学部 准教授 内田 信平 氏

（プロフィールは7ページ参照）



東日本大震災に際し、「復興のための高性能な住宅を、地域の木材を活用し、地元企業の手によって建設し、被災した方々に供給する」というしくみを模索し、これを実現すべく、「宮古発・復興住宅“ぬぐだまり”建設プロジェクト」の取り組みを開始した。現在、このプロジェクトによるモデル住宅を建設し、復興のための住宅需要を被災地域の経済活動の再生へとつなげることをめざしている。

パネルディスカッション

テーマ：地域で支える仮設・復興住宅

地域住宅計画賞の東日本大震災復興特別部門の受賞者と共に、仮設住宅や地域型復興住宅と復興まちづくりのあり方について、ディスカッションを行なっていただきます。

パネリスト



多田 欣一 氏 住田町長

1945年 住田町生まれ。1968年 東京農業大学農学部卒業後、岩手畜産公社、住田町役場勤務を経て、2001年 住田町長に就任。現在3期目。
東日本大震災に際して、気仙は一つの思いから、いち早く、地元建産材・工務店を活用した戸建ての応急仮設住宅を建設した。



三井所 清典 氏 アルセッド建築研究所所長・芝浦工業大学名誉教授

1939年 佐賀県生まれ。1968年 東京大学大学院博士課程修了。1982年 芝浦工業大学工学部教授。2012年 日本建築士会連合会会長就任。
伝統構法を活かした大型木造建築の開発設計に取り組み、林野庁森林技術総合研修所・林業機械化センター（群馬）、などで、地域の大工さん、工務店の皆さんのが参加できる一般木造建築の地域化に努めている。



佐藤 隆雄 氏 (独)防災科学技術研究所客員研究員

1948年 大船渡市生まれ。1973年 名城大学第1理工学部建築学科卒業。
1976年 京都大学工学部工学研究科（地域計画学専攻）研究生修了。1978年 防災都市計画研究所入所。1984年 (財)日本システム開発研究所入所。2006年 同研究所理事、関西学院大学復興制度研究所客員研究員を兼務。2009年 (独)防災科学技術研究所客員研究員。2010年 東京経済大学講師、現在に至る。



内田 信平 氏 岩手県立大学盛岡短期大学部准教授

1965年 宮城県生まれ。東北大学卒業、早稲田大学大学院修了。住宅メーカー、設計事務所を経て、2001年より岩手県立大学盛岡短期大学部講師。2009年より准教授。1996、98年度の環境・省エネルギー住宅賞受賞。2007年 第2回サステナブル住宅賞住宅金融公庫総裁賞受賞。2008年 「建材・設備はどこで何からつくられているか」（エクスナレッジ）を上梓。

コーディネーター



岩田 司 氏 (独)建築研究所 住宅・都市研究グループ

上席研究員兼研究主幹

1957年 神戸市生まれ。東京大学大学院工学研究科都市工学専門課程修了。
1989年 建設省建築研究所入所、設計研究室長、建設経済研究室長を経て現在に至る。福島県三春町をはじめとし、全国各地において住まいづくりまちづくりに関する研究・活動を展開している。

まち歩きMAP



エクスカーション



◎農林会館出発（9：00）

①住田町木工団地⇒②陸前高田市内⇒③大船渡市内⇒④大船渡市三陸町吉浜地区⇒
⑤釜石市内⇒⑥遠野市仮設住宅⇒⑦新花巻駅（15：40頃）⇒⑧花巻空港（16：00頃）



地域住宅計画全国シンポジウム2012住田大会

主催：地域住宅計画推進協議会、住田町

共催：豊かな住まい・まちづくり推進会議

後援：国土交通省、環境省、岩手県、(独)住宅金融支援機構、(独)建築研究所、
(社)都市住宅学会、(社)日本建築家協会、(公社)日本建築士会連合会、
(社)岩手県建築士会、(公社)日本都市計画学会、(財)日本住宅・木材技術センター、
(一社)すまいづくりまちづくりセンター連合会、岩手日報社、東海新報社

地域住宅計画推進協議会 事務局

〒102-0071

東京都千代田区富士見 2-7-2 ステージビルディング 6 階

TEL03-5211-0584 FAX03-5211-3169